週刊
明るい小矢部
赤旗 読者通信 改題
2024. 4. 21
通巻No.1645
日本共産党
小矢部市委員会
市内七社 245
Tel 67-4322
Fax 67-4842

何でも
ご相談を

市議会議員
上田由美子
☎ 68−2106
Fax 68-2146

参議院議員
井上さとし

前衆院議員
藤野保史

禁無断転載
複写配布

子どもの居場所づくりを

上田由美子市議の予算委質問（3）

不登校児のために 空き教室を 自宅の居間のように

全国で注目

【上田市議】いま全国的に、不登校の児童・生徒の居場所として、学校の空き教室を利用することが注目されている。

通常の教室に入りづらい生徒が学校でゆったり過ごす場所として、保健室ではなく、空き教室を自宅の居間のようにして利用している。

小矢部市でこのような対応をしている学校はあるのか。

市内で空き教室の利用はない

【教育総務課長】不登校の児童生徒が通える場所として教育支援センターがあり、現在市内の小中学校の空き教室を教育支援センターとして利用している実績はない。

空き教室利用し 指導員が居て見守りを

【上田市議】県外で実施している学校では、決められた時間割はなく、生徒一人一人が自主的に学ぶことができることと、授業の出席扱いになることが特徴だ。指導員が常駐し、子どもたちを見守り、要望に応じて学習をサポートしている。不登校の児童、生徒の居場所として小矢部市でも実施してはどうか。

教育支援センターの利用促進をしたい

【教育総務課長】全国的に不登校の児童生徒が増加している中で、国では学校内の教育支援センターの設置を進める動きがある。

市内の岩尾滝にある教育支援センターの利用者は、現在小学生7名、中学生4名登録している(参考　22年度、市内の不登校児は中学校22名、小学校20名の42名。教育支援センターに通った児童生徒は12名)。これらの利用人数では、各小中学校に教育支援センターを設けた場合、各学校に配置する指導員の人件費の負担大きいため現状本市では難しい。

教育支援センターの利用増なら 各学校での対応を検討

今後は、教育支援センターの利用推進を図る中で、利用者が増加するようであれば、各小中学校での対応を検討していきたい。

旧おとぎの館の利用は？

【上田市議】不登校の子どもには様々な居場所の選択肢が必要だ。昨年、旧おとぎの館を児童館にして、多くの市民や子育て支援団体が使えるようにすることを提案したが、児童館も子どもの居場所としての選択肢の一つである。

旧おとぎの館を利用することについて、クロスランド周辺施設の再編計画のなかで検討するとのことだったが、現在どのようになっているか。

クロスランド周辺施設再編計画で協議中

【教育総務課長】児童館も居場所として考えることは問題ないが、児童館は基本的には元気な子どもが通う福祉施設であり、教育の実態がないため出席扱いにはならない施設である。

クロスランド周辺施設の再編計画については、行革専門委員会において、担当課間で協議が進められている。

フリースクールに助成も選択肢に

【上田市議】小矢部市として、岩尾滝にある学校教育センターの適応指導教室以外にも様々な選択肢を用意して、不登校の児童、生徒や保護者が安心できるような対策が求められているのではないか。県では、フリースクールに通う子どもに対して費用を助成する仕組みができると聞いている。どのように考えるか。

【教育総務課長】本市においては、不登校児童生徒及びその保護者に対する適切な支援としては、学校と保護者の間で情報共有や連携を密にし、的確な支援を提供することが重要である。児童生徒が教育を継続できるよう、オンライン学習などの教育環境を提供し、学習などの遅れを最小限におさえる政策や、学童農園や花壇での植物の成長に触れることなど学校外の活動を通じて、自己成長や社会性をつちかうことも重要だ。